

令和3年第1回市議会定例会質問者一覧表

(令和3年3月10日、11日、12日)

代表質問者一覧表〔第1回市議会定例会 令和3年3月10日開議〕

質問日	令和3年3月10日(水)			質問方式	分割方式		
質問順位	1	会派名	自由民主党浜松	議席番号	31	氏名	戸田 誠
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 施政方針について	<p>施政方針で、「～デュアルモード社会の構築で未来を“かたち”に～」として、本市をさらなる高みへ押し上げる活力につなげるとしている。</p> <p>そこで、市長として、デュアルモード推進の考え及び意気込みを伺う。</p>						鈴木市長
2 予算編成について	<p>令和3年度予算編成はコロナ禍の中で変則的な予算づくりとなったと考える。その中で、市長は令和3年度当初予算案を「3D」と命名した。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 予算の命名の意図と具体的に反映されている要素を伺う。</p> <p>(2) 令和4年度以降も歳入は厳しいものがあると予想される。今年度予算さえよければいいというものではない。そこで、令和4年度以降の予算がどのように編成できるのか、また、編成していく考えなのか伺う。</p>						鈴木市長
3 区再編について	<p>行財政改革・大都市制度調査特別委員会で、新しい区割りのたたき台が議論されている。市民サービス体制や組織など具体的な検討が始まっていく。前々から市長は、区再編を行うことで、柔軟な組織をつくるのが可能だと言われてきた。</p> <p>そこで、以下4点伺う。</p> <p>(1) 市長が考える柔軟な組織の考え方を伺う。</p> <p>(2) 区が多く存在することにより、なぜ、柔軟な組織をつくることができないのか伺う。</p> <p>(3) 市民がサービス低下と判断する大きな要素は、行政が遠くなったと感じることと考える。距離の遠さを感じさせないためには、オンラインでの手続が有効である。そこで、今後のオンライン手続をどう進めるのか伺う。</p> <p>(4) 温かみのある行政として、手続や相談に当たり、市民が身近な協働センターなどで、遠隔からでも区役所に訪問したときと同じように感じられることができれば行政が遠くなったとはならないと考える。そこで、仮想空間の技術を活用して、相談業務等に対応する考えがあるのか伺う。</p>						鈴木市長 " 朝月デジタル・スマートシティ推進事業本部長 "

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>4 防災・減災、国土強靱化について</p> <p>5 防災意識について</p>	<p>本市議会としても、国に対して、「防災・減災、国土強靱化の継続・拡充を求める意見書」を議決し、提出した。補正予算の土木費においては、国追加補正予算、「防災・減災、国土強靱化の推進」に基づく、「道路防災・橋りょう耐震・道路施設長寿命化」等が含まれており、総額で約26.7億円という大規模な補正予算であり、その獲得に向けては、市長自ら国土交通省等、国への地道な要望活動が実った結果であると認識している。</p> <p>国は「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を令和3年度から令和7年度において実施し、事業規模を概ね15兆円程度としている。今後の本市の道路防災・橋りょう耐震化・道路施設長寿命化事業等の計画的な推進には必要不可欠な予算であり、積極的な活用をしていく必要がある。</p> <p>そこで、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策に続く、5か年加速化対策の予算を活用した今後の取組を伺う。</p> <p>東日本大震災から10年になる。本市もこの10年で、防潮堤をはじめ、津波避難タワーなどのハード整備、区版避難行動計画の策定などのソフト事業と、様々な対策を行ってきた一方、防潮堤の完成などによる安心感から、私たちの意識が津波災害から離れ始めているように感じられる。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 東日本大震災の教訓に対する本市の防災対策の取組について伺う。</p> <p>(2) 市民の津波防災意識の継続に係る啓発について伺う。</p>	<p>鈴木市長</p> <p>小松危機管理監</p>
<p>6 産業支援について</p>	<p>新しい産業を興し、経済を力強くすることで歳入増を可能とするものを推進するべきと考える。今後の課題として環境の問題、医療費抑制の問題、高齢者福祉の問題、インフラの長寿命化問題などがあり、経費が膨れ上がる要素が多くあるが、これらの費用を抑制し過ぎることは生活に大きく影響が出る可能性がある。機能維持をしながら経費削減を目指すためにも、ベンチャー企業のイノベーションで問題解決をすることが求められる。</p> <p>そのことを踏まえて、本市は社会課題を解決する目的で「実証実験サポート」を行っている。本市に合った課題に的を絞り、このような分野や技術に対して、色を出し広報し、誘致していくことで、強みとしていくことが必要であると考えます。</p> <p>そこで、持続可能な市としていくために、社会課題をテーマとした新ビジネスの創出、ひいては、本市産業の発展を促し、かつ、市の経費削減にも寄与することから、実証実験サポート事業において、地域特性を生かしたよ</p>	<p>鈴木市長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
7 地域材利用の促進について	<p>り多くの課題テーマを提示し、ベンチャー企業のイノベーションを促す考えがないか伺う。</p> <p>今後の世界での課題は環境問題である。地域材活用の観点でいえば、建築基準法が改正され、防火関連規則の大幅な見直しや準耐火構造の適用範囲の拡大等により、中層建築物における木造化、木質化が期待されている。液体ガラスを塗料として木材に利用することで、防火機能や湿度調整機能を維持強化することを可能とする技術なども開発されており、今後、中高層建築物への木材利用の追い風となっていく。</p> <p>木材利用は、浜松中部学園や浜名中学校など学校施設において積極的に天竜材を活用しているが、学校以外の市所有の公共施設において、地域材をふんだんに使用し新しい技術も多く活用したランドマークが必要と考える。森林環境譲与税は、森林整備以外の木材利用等にも、効果的に活用する必要がある。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 木材利用に関する林業施策をどう進めていくのか伺う。</p> <p>(2) 公共建築物へ天竜材を積極的に活用すべきと考える。また、新しい技術を導入する考えがあるか、市の方針を伺う。</p>	山下農林水産担当部長
8 新型コロナウイルス対策について	<p>医療従事者に対して、新型コロナウイルスワクチンの接種が行われている。医療従事者の次には高齢者に対してワクチン接種が計画されている。本市は、浜松方式として、個別接種、集団接種及び巡回接種とした。これは、本市が医療関係者との協力体制をしっかりと構築できていることで可能になった方式と考える。</p> <p>しかし、大規模なワクチン接種は課題が多く、ワクチン接種後の副反応に対する医療体制の確保が求められる。</p> <p>そこで、以下4点について伺う。</p> <p>(1) 浜松方式として実施していくに当たり課題と対策を伺う。</p> <p>(2) ワクチン接種後の副反応に対する医療・相談体制について伺う。</p> <p>(3) 集団接種では、大勢の市民が集まるので、会場で生産者や小売店の支援をつなげる方策も取れると考える。そこで、接種会場で農林水産物のPRや物産展を実施してはどうかと考えるが、所感を伺う。</p> <p>(4) 市役所内でクラスターが起り、業務が滞ることがないように対策をしていると思う。また、新型コロナウイルス対応のため、様々な部署で仕事量が増大していると聞く。そこで、新型コロナウイルス対応によって、通常</p>	<p>鈴木医療担当部長</p> <p>〃</p> <p>山下農林水産担当部長</p> <p>金原総務部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>業務が滞ることがないように、BCPを活用した人員配置をどのように行っているか伺う。また、市役所内での感染対策はどのように行っているのか伺う。</p>	